

郷友連盟主催の「安全保障フォーラム」に参加し、新しい歴史教科書をつくる会副会長藤岡信勝氏の「歴史戦 敗北から反転攻勢へ」と題する2時間の講演を拝聴した。2時間に亘って熱弁を振るわれたその内容は、何れ郷友連盟から紹介があると思うが、その要点と小生が特に感じた点を幾つか述べてみたい。

講演は、二部構成で、第一部は「歴史戦 2015 年の大敗北」、第二部は「歴史戦 反転攻勢への流れ」であり、氏の熱誠溢れる思いの丈を受け止めた。多くの諸氏にその感動を記録に止めたく本稿を記すものである。

## 1 講演の要点

### (1) 第一部

#### ① 歴史戦の起源

歴史戦は 20 世紀の戦争解釈をめぐる戦争で、仕掛けられた戦争、革新はペキンテルン現在の歴史戦の起源は①江沢民の「愛国主義教育要綱」(1994) ②習近平の「反日統一共同戦線」の提唱(2012)、周は領土問題と歴史問題の接合戦略、国連・ユネスコ・関係国取り込み

#### ② 2015 年の歴史戦 5 連敗

- ・ 3 月 安倍首相米紙に慰安婦を人身売買と認め、性奴隷説の口実
- ・ 7 月 外務省、韓国に「強制労働の」の言質→徴用工問題の発端
- ・ 8 月 14 日 東京裁判史観を認めた「戦後 70 年首相談話」の発表
- ・ 10 月 ユネスコ記憶遺産への中国提出の南京事件登録
- ・ 12 月 28 日 慰安婦問題での敗北を決定づけた日韓合意

### (2) 第二部

#### ① 2015 年の日米歴史家論争に完勝

#### ② 日韓合意の失点の回復 国会と国連における活動の成果

首相の慰安婦問題の 3 点セット（慰安婦の強制連行、性奴隷、20 万人）否定答弁

#### ③ ユネスコ記憶遺産慰安婦の申請阻止

#### ④ \*通州事件、\*正定事件で先制的予防的反論の実施（\*は後述した。）

## 2 小生の所見等

### (1) 日中の歴史戦に対する基本的態度の相違

中国(韓国)は、歴史戦を国策として、組織的有機的に遂行し、それが奏功している。対するに我が国は全体的に後手後手であり、政府一丸とは云えず、どちらかというとな腰が引けていた。また、政府が前面に出ず、民間に任せていた面無きにも非ずだ。

### (2) 戦後政治の清算を身上とする首相の想いを具現化し得ない態勢

首相や国民の大多数の思いにも拘らず、自虐史観から抜けきれない識者やマスコミの大勢に抗しきれず、結果として中途半端で不満の残るものとなった。有識者選考の段階から結果は予測できたことではあるが、残念だ。

米国への遠慮、忖度もあって、云うべきことを堂々と主張することを是としない国民性や正しいことは何れ理解される筈だとの幻想に捉われていたとも云える。

国際政策では“和をもって尊しと為す”は是であるとしても、対外的にはマイナスである。政治家の好きな「毅然として」を有言実行すべきだ。

(3) 戦後の常識で戦前の行為を批判する愚

公娼制度が認められていた当時においては、慰安婦は人身売買されたのではなく、女衞によって斡旋されたとは云え、一つの職業であった。当時の法体系上全く問題となる筋合いのものではない。不法行為を見逃したのであれば国家としての責任は免れないとしても、慰安婦の存在そのものを是認したうえで、そこに国家的な強制力が働いたか否かが問われていたにも拘らず、慰安婦そのものの当否を感情的に批判しているのが日本のマスコミや識者である。政治家ですら、同様の者が居る。

(4) 不用意・迂闊に相手の術中に陥る愚

東北地方の若い女性が身売りされて女郎となったことが、“云わば人身売買みたいなものだ”位の認識で、欧米人にとって人身売買は奴隷制そのものとの認識されている“人身売買”を安易に認めたり、forced labor ではなく forced to work ならば問題なかろうとの妥協・了解したことが、後々そんな心算ではなかったということになる、日本のお粗末さを露呈している。外交的にも日本は幼すぎたのだろう。

(5) 日韓合意に対する日本人と他国の受け止めの差異

日韓外相による日韓合意を、日本では決着と捉える向きが多いが、世界の反響は全く違っており、日本が性奴隷化に関与したことを認めたと全く逆な理解である。氏は、慰安婦に対する世界の誤解は決定的なものになってしまったと評しておられるがその通りだろう。

(6) ユネスコ改革は重要な第一歩

世界遺産登録審査に関する日本の主張が認められたことは、エポック・メイキングであった。中韓の恣意的政治的な登録に異議を申し立てる機会があるというのは良いことだ。それにしても本来公開すべきものを公開していないユネスコにも大いに問題があると云うべきであり、更なる改革が必要だ。日本は遅きに失したとも云えよう。

(7) 国策としての反転攻勢を実施すべし

第二部で述べておられるように、反転攻勢の主役が未だに民間である。勿論、政府が表だって動けないとしても、万全のサポートをすべきである。

歴史戦に如何に対応するかを明確にして実行すべきだ。国連や機関に対する人材派遣、日本の主張の積極的な周知説明、世界各国に対する積極的な広報等打って出るべきだ。そのような姿が見えてこない。その都度抗議するばかりでは、理解は得られない。在外公館の更なる活動を強く要望する。朝日新聞の虚偽報道を徹底的にPRしなければならぬ。何と弱気な事か。

また、自国民に対する啓蒙活動も行うべきだ。勿論次代を担う子供たちに対する教育はもっと大事だ。

### 3 参考

通州事件について

○山下のHP 折々の記 No77：闇に埋もれさせるな！

<http://yamashita2.webcrow.jp/oriori-77..pdf>

○通州事件に関する藤岡氏編・監修の最新書籍 勉誠出版 2017/7 出版 1500 円



○正定事件とは ウィキ等によれば、次の通りである。

正定事件は、1937年10月9日、現在の中国河北省正定において、キリスト教・カトリックの司教ら9人が誘拐・殺害された事件である。当時のニューヨーク・タイムズ紙等に掲載されている記事によれば、9人のオランダ人司教達は、中国の山賊に誘拐され、その後、殺害されて発見されたとされる。その後、日本軍当局の調査により、彼らを殺害したのは日本軍所属の朝鮮人または満州人兵士であったという結論に達したとされる。さらに、横山彦真少佐及び日本軍当局者、外国人宣教師、仏教僧侶などの列席のもと、同年11月22日に追悼ミサを行い、日本軍司令官の弔電が読まれたことも記されている。そして、追悼ミサのあと、横山は「同様の事件が二度と起こらないようにしなければならない」と述べたとされる。殺害された9人の列福運動がオランダで起きており、日本に対する非難運動化する恐れもある。何れにしても政治的思惑抜きでの事実解明が待たれる。

#### 4 終わりに

歴史戦への対応を見ていると日本は何とお人好しだろうかと思ってしまう。強かな中国に翻弄されているとしか思えない。黙っていても理解してくれるなどと考えるはいけない。正しい歴史認識に基づく国家としての誇りを取り戻さねばならない。(F)

#### \*藤岡信勝氏紹介

昭和18（1943）年北海道生まれ。拓殖大学客員教授。「新しい歴史教科書をつくる会」副会長、「通州事件アーカイブズ設立基金」代表。北海道大学教育学部卒業。同大学院教育学研究科博士課程単位取得。専攻は教育学。東大教授等を歴任。平成7（1995）年、自由主義史観研究会（現在は「授業づくりJAPAN」）を結成。平成9（1997）年には「新しい歴史教科書をつくる会」を創立し、現在に至る。著書多数